

彙報

新著紹介

教育學研究會

四月二十八日午後六時より

大阪市視學 山城儀重氏の

歐米の新教育學校

に關する講演ありたり。

倫理學例會

五月二十五日(金)午後六時より

學生集會所に於て

理學部講師 山本宣治氏の

「性の倫理に關して」なる講演ありたり。

心理學讀書會

五月二十七日午後三時より

心理學實驗室に於いて

野上教授の

Mail. Science

根本佛典の研究

文學士 長井眞琴著

漢譯佛典が佛教研究の主要な資料である事は言ふまでもない、併し現存漢譯の由來を考へその性質如何に想到する時私違はそれのみ依りて佛教の根本的研究を遂行すべく一種の不安を感じざるを得ない、茲に於てか本文批評、原典研究の必要は起り來るのである、而して現存原典亦必ずしも正眞なる原典ではなく、その由來性質は漢譯と畧その趣を同じうする。嚴格の意味に於て原典批判の業その難きや贅言を須たす。

著者長井眞琴氏特に巴利原典の研究に没頭せらるゝ事多年、本書は著者が特に律藏の研究に關して獲られた「副産物」といふのであるが、しかしたとへば漢譯善律が古來四分律の註釋なりと見誤られた理由や、その漢譯中差誤のある點を該本譯出後一千四百有餘年の今日指摘せられ事などはたしかに著者が「今日までの學究的生活の記念」として「新發見」といふ「大快事」な味はれた一の記念塔でなくてはならない、著者は勿論巴利原典研究者ではあるが決して原典に拘泥うて居ない、その漢巴比較研究の公平なる態度には讀者をして一種の嚴肅さを感じしめる底のものがある。

一、「巴利語に就いて」はそれが佛時代の摩竭陀國語に最も近いものであらうと想像し、梵文阿含經の發見されたものがあるが、併し根本佛典の研究上巴利本の價值は毫も輕減せざるのみならず巴